実行委員会委員長メッセージ

おだわら環境志民
フォーラム
実行委員会委員長
鈴木　博晶

郷土の恵まれた資産を見直し、磨き直そうと一昨年スタートした無尽蔵プロジェクト。その中で１６の団体からなる環境（エコ）シティチームでは、小田原の環境課題を整理し、「森の再生からブリの来るまちへ」をスローガンとして、一つ一つ解決策を打ち出していこうとしていたその矢先の３・１１でした。自然に抗する生き方を改めるべきと目が覚めた思いです。森も里も海も、水という血液で循環していることを実感させられました。

小田原は、森里海がコンパクトなエリアで連環している風土だからこそ、森と海を再生することが、まちの魅力と価値を高めてくれ豊かな生活をもたらしてくれる「未来型モデル」になれると確信しました。「小田原の生き方、小田原の暮らしぶり」を全国に、世界に発信できるものにする、その第一歩を踏み出したいのです。

２日間、シンポジウム、ワークショップ、展示がびっしり用意されています。多くの気づきと学びを得ていただけましたら幸せです。さらには、このフォーラムを機に、小田原の環境課題が一元的に把握され、多くの市民が様々な環境に関する活動に参加し交流していけるためのプラットフォームも形成したいと考えております。

市長メッセージ

小田原市長
加藤　憲一

私たちの郷土小田原は、首都圏の西端にあって、山、川、海、広々とした農地、里山といった様々な自然環境に恵まれた地域であります。この優れた資産というべき身近な自然環境は、孫子の代までより良い状態で引き継がれなければなりません。また、３月１１日に発生した東日本大震災で大きな課題を突きつけられ、時代の転換期に立たされた私たちは、放射能問題、エネルギー自給、そして食や水など命を支える身近な自然環境との共生、ライフスタイルのあり方について、これまで以上に真摯に考えなければならない局面を迎えています。

このような状況の中で、私たちには、大きく２つの取組を行っていく必要があると考えています。

一つは、原発事故によるあまりにも多くの犠牲を伴って得た教訓は、「エネルギーは安全でなければならない」ということです。つまり、後世に生きる世代にとって重く辛い負の遺産となる原子力エネルギーは、将来的に代替されなければならないという課題に真摯に取り組むことです。このタイミングを捉え、官民を挙げて地域エネルギー自給構想を練り、実現しなくてはなりません。

もう一つは、私たち自身がコミュニティを通じて地域の優れた自然環境を守り育て、活用することによって、新しい価値を生み出すということです。これらの中には、かつては大いに利用されていたものの、時代の変化とともに利用されなくなってしまったものもあります。今日に相応しい新たな取組を通じて、再生・活用することが必要であり、地域として自律性をもって実践されることによって、未来に向かって持続可能な環境共生都市であり続けることができます。

幸い、本市は優れた自然環境と地域資源を有しており、これらを守り育てる取組を行っている人々が数多くいらっしゃいます。さらに、今後このような活動に加わりたいと思っている方々も多いことでしょう。

このフォーラムを通じて、多くの市民の皆様が本市の環境課題を共有し、環境改善活動や小田原の自然環境を活かす活動に取り組まれることを大いに期待しております。

小田原市無尽蔵プロジェクト・環境（エコ）シティ構成１６団体

小田原生（いき）ごみクラブ　小田原市環境再生プロジェクト　小田原市環境ボランティア協会　小田原市環境緑化協会　小田原市漁業協同組合
小田原市森林組合　小田原市低公害車普及促進会議（おだわらエコカープロジェクト）　小田原市ＢＤＦ連絡協議会　小田原市外二ヶ市町組合
小田原鮮魚店舗商組合　小田原フラワーガーデン友の会　小田原森のなかま　小田原山盛の会　小田原有機の里づくり協議会
特定非営利活動法人神奈川育林隊　特定非営利活動法人ｍａｍａ’ｓ　ｈｕｇ

ＦＭ小田原株式会社（小田原スタイルの情報発信コーディネーター）　以上のメンバーで実行委員会を構成しています。

お問い合わせ　☎0465-33-1476　（小田原市環境政策課内）
発行：小田原市・おだわら環境志民フォーラム実行委員会

POST 3.11

おだわら 環境志民フォーラム

入場無料

～森の再生からブリの来るまちへ～

２０１１年１１月１９日（土）～２０日（日）
小田原市生涯学習センターけやき

はじめます　志民の力で

東日本大震災は、電力供給不足、原発事故による放射能汚染といった問題を引き起こし、地域の安定的な経済活動、水や食の安全、安心して生活できる環境など、我々の生活の基礎となる様々な要素に極めて深刻な影響を与えました。
「３・１１」で時代の転換期に立たされた私たちが、生き方を見つめ直し、今何に気づかなければいけないかを考えます。

おだわら無尽蔵

2011・国際森林年

主　　催　小田原市・おだわら環境志民フォーラム実行委員会
後　　援（予定を含む）　林野庁・関東森林管理局　環境省関東地方環境事務所　神奈川県　箱根町　真鶴町　湯河原町　小田原市教育委員会　小田原箱根商工会議所　小田原市観光協会
協　　力　特定非営利活動法人ものづくり生命文化機構　特定非営利活動法人ガイア・イニシアティブ　おだわら森林・林業・木材産業再生協議会
特別協力　国際森林年国内委員会事務局

シンポジウム　身近な自然環境との共生や地域エネルギー自給について、森里海連環をテーマに、多くの気づきを

11月19日（土）

9：30	開　　場	
10：00	開　　会	趣旨説明
10：15	基調対談	森里海連環「魚つき林思想に立った生き方とは」 田中　克　　畠山重篤
11：30	プレゼン	「ブリの海」昭和の映像　　石戸谷博範
12：00	休　　憩	
13：00	ミニ講演①	「食とどう向き合うか」　　上田勝彦
13：20	ミニ講演②	「放射能とどう向き合うか」　菅野　哲
13：40	ミニ講演③	「今までの生き方を正す」　　大熊　孝
14：00	ミニ講演④	「エネルギーを考える」　　河野太郎
14：20	ミニ講演⑤	「緑の国へ ～生まれ変わる日本の再生～」 稲本　正
14：40	休　　憩	
15：00	パネルディスカッションⅠ	「私たちの生き方を見つめる」 コーディネーター　野中ともよ パネリスト　上田勝彦　菅野　哲 大熊　孝　河野太郎 稲本　正　太田猛彦
17：00		

11月20日（日）

8：30	開　　場	
9：00	環境（エコ）シティ活動プレゼン	総論：小田原の環境変化と課題 各論：「ブリの森づくりプロジェクト」 「報徳の森プロジェクト」「海浜植生」など
10：00	パネルディスカッションⅡ	「小田原の豊かな海のために」 コーディネーター　野中ともよ パネリスト　高橋征人　武井　正 上田勝彦　石戸谷博範 篠本幸彦　加藤憲一
12：00	休　　憩	
13：00	基調講演	「森林の変遷とその機能 ～森・川・里・海のつながり～」 太田猛彦
14：00	パネルディスカッションⅢ	「小田原の森の再生と暮らし」 コーディネーター　太田猛彦 パネリスト　神山洋介　辻村百樹 近藤増男　永井壮茂
16：00		

石戸谷博範（いしどやひろのり）

1954年神奈川県生まれ。
神奈川県水産技術センター相模湾試験場。
回流水槽を用いて、定置網、急潮、防災を研究。

稲本正（いなもとただし）

1945年富山県生まれ。
1974年持続可能な社会を目指し「CO_2の削減」と「循環型社会」を念頭に置いたオークヴィレッジ創設(代表)。

上田勝彦（うえだかつひこ）

1964年島根県生まれ。
水産庁情報技術企画官。
長崎県野母崎町の漁師を経て、農林水産省に転職。トークと料理でサカナの魅力を伝える伝道師。食力すなわち国力ととらえ、現代の食政策に警鐘を鳴らす。漁業と魚食の復興集団「Re-Fish」代表。

大熊孝（おおくまたかし）

1942年台北生まれ。千葉育ち、新潟市在住。東大工学部土木卒、工学博士、新潟大学名誉教授、NPO法人新潟水辺の会代表。専門は河川工学、土木史。自然と人の関係がどうあればいいかを、川を通して研究しており、川の自然環境を守るとともに、治水・利水のあり方を住民の立場を尊重しながら考察している。

太田猛彦（おおたたけひこ）

1941年東京都生まれ。
東京大学名誉教授。日本学術会議連携会員。
FSCジャパン議長、かわさき市民アカデミー副学長などを務める。森林と水の関係を主軸として、治山・砂防、流域圏及び森林管理、森林・環境行政、技術者教育等の分野で幅広く活動。

加藤憲一（かとうけんいち）

1964年小田原生まれ。
京都大学法学部卒。
経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、漁業、商業ビル企画管理、地域シンクタンク代表などを経て、2008年５月より第20代小田原市長。

神山洋介（かみやまようすけ）

1975年小田原生まれ、湯河原育ち、小田原市在住。
1999年慶大卒業。第一生命保険、（財）松下政経塾入塾を経て、2009年衆議院総選挙にて初当選（神奈川17区、34歳）。国土交通委員会、安全保障委員会、決算行政監視委員会、災害対策特別委員会ほか委員を歴任。

菅野哲（かんのひろし）

1948年生まれ。
元福島県飯館村職員。住民課長、産業振興課長などを歴任。定年退職後、家業の農業に復帰。原発事故により福島市に85歳の母と妻の家族３人で避難生活。避難村民のコミュニケーションの場としての畑の提供等をあっせんし、村民の絆をつなぎとめるために努力。

河野太郎（こうのたろう）

衆議院議員。
湘南国際マラソン実行委員長。
元湘南ベルマーレ代表取締役。

近藤増男（こんどうますお）

1946年小田原生まれ。
小田原市環境緑化協会会長。
小田原市外二ヶ市町組合副組合長。美しい久野・里地里山協議会副会長。社団法人日本植木協会副会長(2001～2003年)。
日本列島植木植物園運営委員長(2004～2009年)。

篠本幸彦（しのもとさちひこ）

1945年山北町生まれ。
酒匂川漁業協同組合組合長。
1964年富士写真フイルム（株）足柄研究所入社。その頃から鮎釣りにはまった。
在職中の1994年に酒匂川漁業協同組合員になり、退職後の2007年に組合の理事になり、2011年に組合長に就任。

高橋征人（たかはしまさと）

1943年小田原生まれ。
全漁連理事、県漁連会長、小田原市漁協代表理事組合長。
大型定置網２カ統経営、定置網のスペシャリスト、高鮮度の魚づくりを推進。

武井正（たけいただし）

1940年神奈川県生まれ。
特例財団法人相模湾水産振興事業団理事長。
1972年事業団設立と同時に奉職。種苗放流、中小河川の環境調査、河口海域の水質調査、瀬の海の環境調査、海底耕耘等、山から海への自然の水循環のための事業を推進中。

田中克（たなかまさる）

1943年滋賀県生まれ。
京都大学名誉教授。
有明海等における稚魚研究40年の上に、2003年に「森里海連環学」を提唱。
NPO法人森は海の恋人理事。

辻村百樹（つじむらももき）

1956年生まれ。
辻村農園・辻村山林代表。
明治期から山林家として小田原の林業の発展に貢献してきた辻村家の８代目。
神奈川県林業経営者協会副会長。㈱ T-FORESTRY代表取締役。フォレストアドベンチャー・小田原を開業するなど多角的森林活用を推進中。

永井壮茂（ながいたけも）

1974年東京都生まれ。
前林野庁職員。
前職では、東日本大震災で被災した海岸林の復旧対策や山地災害の治山対策などを担当。
本年度から小田原市経済部管理監として小田原の森林・林業の再生に向け、経済面、環境面から様々な取組を推進中。

野中ともよ（のなかともよ）

ＮＨＫ、テレビ東京などで番組キャスターとして活躍後、アサヒビール、三洋電機など企業役員を歴任。
財政制度審議会など政府審議会委員も多数兼務。2007年 NPO法人ガイア・イニシアティブ設立、代表を務める。

畠山重篤（はたけやましげあつ）

1943年中国上海生まれ。
三陸リアス式海岸に位置する宮城県気仙沼湾で牡蠣や帆立の養殖業を営む。
NPO法人森は海の恋人理事長。
京大フィールド研社会連携教授。

（敬称略、50音順）

ワークショップ　パネル展示／無尽蔵プロジェクト・環境（エコ）シティ

テーマ①　「森里海連環」
「森林再生の取組紹介と「緑のダム」の模型実験」
「真水真砂の大切さを学ぶ展示」

テーマ②　「地域エネルギー自給に向けた取組」
再生可能エネルギー関連展示

テーマ③　「循環、食・堆肥」
生（いき）ごみクラブからの展示

テーマ④　「環境（エコ）シティ」活動
「ブリの森づくりプロジェクト」
「報徳の森プロジェクトー小田原の森で被災地に元気を!ー」
「海浜植生保全プロジェクト」
「環境マップ（グリーンマップ）」
「間伐ｄｅアート」

フェア　エネルギー系商業展示／エコプロダクツ展示

- 太陽光発電システム設置相談会
- 環境エネルギー関係の環境技術の紹介

ネットワークづくり　環境改善活動をするアクショングループ紹介

- 環境分野のコミュニティネットワークの形成に向けた呼びかけ
- 全国規模の団体の展示

無尽蔵プロジェクト

都心から近くにありながら、自然や歴史、文化などに恵まれた小田原。でもまだまだ活かされずに眠っているものが数多くあります。そこで、郷土の偉人・二宮尊徳の教え「荒地は荒地の力で」の教えに基づき、行政主体ではなく、市民の皆さんの自由な発想によって、これらを掘り起こし「新たな小田原スタイル」と作ろうという小田原発のプロジェクト。「環境（エコ）シティ」は、無尽蔵プロジェクトの10のテーマの一つで、環境に関わる多くの団体や市民の皆さんが、小田原の環境課題の共有や実践活動に取り組んでいます。

おだわら無尽蔵